

四十八年の昔をしのんで

熊谷勝園

今から八十七年（明治九年）の昔、幼稚園の開祖フレーベル先生のお弟子クララという先生が東京お茶の水幼稚園を指導なさったのが我が国における幼児教育の始めとか。これを見た岩国の識者の間でも幼児教育の必要性を認められ、明治十九年二月岩園小学校付属幼児保育科を寄付金七十余円で設置し、四人の保育を教育に当らせたが、未だ幼児教育の要旨を知らずもっぱら書き方読み方美術の初歩を教え、一ケ年一

二ケ年の保育を終了。其の学に熱心なものを小学校一学年の試験をして六年未満を小学校二学年へ編入したものもあり、幼児三十名乃至四十名であった。

明治二十年八月幼稚科規則改正令により

甲種保育を実施し、同年九月風琴（オルガン）を買入れ、幼稚科に唱歌を加えた。同年二十一年一月生徒遊戯法を実施し、同年三月第一回卒業生を出した。

明治二十六年十月十五日岩国町立岩園幼稚園が設置されて私はこの幼稚園へ三年まわりましたが、二年間は泣いては帰り叱られては付添い人と幼稚園に行き、二年目三月母に泣かれて一年間は独りで行くようになりました。

私の一生には母の涙が三回あります。二回の涙は東京より京都に帰り仏教大学に入学前、またその後。

幼児宗教教育に熱中された上松謙藏先生の「不思議の力」から小幼児宗教教育の必

要性の自覚を開いて、京都の児童会（日曜学校）幼稚園に従事、研究を積み岩国に帰り、また、大正四年三月岩国町会は経営不如意のため岩園幼稚園を廃止することになりまして、小学校長山県有師のすすめで、幼稚園保育品一切を無条件で頂いて、同年六月染香少年教会の付属として岩園染香童園を設置し、後恩物買入れ、幼稚園視察に東京に出かけました。その第一がお茶水幼稚園でした。倉橋惣三先生からは童園とはおもしろいとほめていただきましたが先生の感情を先生が幼児に移すか移さぬかは先生の感いかん、決して強くない、倉橋先生の一生懸命主義を聞かしていただいて今なおそれを理想としています。東洋幼稚園の岸辺先生が桃太郎の話と同じ幼児に年百五十回されるということを聞き、また学習院の幼稚園を参観して付添人の部屋があり決して保育室に付添人は入れないことも聞かされ、なお東洋幼稚園の「静かな部屋」、落ちつきのない児の取扱いを聞いて今これを仏前礼拝に変えております。

昭和の始め山口県保育会を設立して（公立七私立十保育所二）、先生研修の集りをして参りましたが、今は公立は独立し私立も独立しその当時の幼稚園長僅かに二名しかありません。

一番困った事は大東亜戦争の戦時保育所切り変えの後物資不足のため幼稚園に帰るもの少なく、二十四五園だけが幼稚園として公的の補助なく経営困難にて、先生も手に入らず、その上父兄達に幼児教育の理解なく、それを宣伝する講演と活動写真との各地の巡講も、自費でやった事を思えばほんとにつらかったが、十五週年の祝辞と、久留島武彦先生から御手紙をいただいたもの、今なお額としてあります。「理解の少ない父付を説いてよくも十五年をやられた。しかし君は世界一の運動場に恵まれた幸福者だ、城山の下を流るる錦川の清流、その上にかかる日本三奇橋の一つの錦帯橋、その下は幼児自然の保育室、石あり草あり魚ありのあの川原は白赤黒青種々の美しい石が一面にあり、その上に喜々として遊ぶ幼児

は天国の如し」のお言葉に力を得て今日、今や五十週年を迎えるかと思えば、母の涙の第三が「あれが今にやる」と九十三才になる老人の家で涙で私を力にしていること。今日のは、唯母の涙のためである。

園を経営する貧乏の苦しみと先生の長く続かぬ心労は誰もあることながら致し方ないとは思いますが、若くては困る年取られても困る永くて三、四年いよいよこれからという時に結婚されたり他に求職されたり 仕事は重労働、給料は少ない、お手は無理解ととてもやれたものではない 今日でもその感が一層深い。私は早くより毎月母の集りを聞いてせめて父兄の理解を得ようと努力した結果、最近ではその方向にやって来た。しかし学校のPTAのように行過ぎや母の虚栄になりかけていることはなにかわしいことである。

幼児教育の必要を説く偉い方々か積極的に力をいれられぬのをふしきがついていたが最近池田首相の人間づくりとか人間再発見

とかの声の出だしたことは幼児教育によるこぼしいことである。幼稚園を小学校の予備門のように考えられた方はこの際幼稚園教育は人間の性格形成の重要期であることを再認識してほしい。国民体育大会が各地に催されているが、健民運動は体位向上と道義向上ともに先ず幼稚園教育よりと叫ばれたい。私たちはとにかく子どもを引きずる教育者であるようである。かあちゃんと呼ぶ声を聞いてかあちゃんと呼ぶ声は子どもに答えてやりた。かあちゃんと呼ぶ声は子どもの叫び声なれども、久遠切来母が子どもにたえずたえずかあちゃんかあちゃんと呼んだ声子どもか受けてかあちゃんと呼ばれたのではないのでしょうか。私たちの心の底の久遠のいのちが久遠の願いとあらわれたのです。かあちゃんと呼ぶ声を聞いてやりましょう。子どもの耳をからずに私の耳を子どもにかすことを子どもは待っている。そこに真の人間形成ができるように思われま。教えるにあらまず聞かしていたたくか。

（岩国染香幼稚園長）